

2. データベース

トラウマ研究に関する文献・資料データベースを開発し、ウェブ上に公開した。永続的な利用と、利用頻度を考慮して、この分野の専門学会である日本トラウマティック・ストレス学会ホームページに掲載していただいた。同学会ホームページは毎日2万件近いアクセス数があるため、このデータベースを公開するには最適な環境と判断した。

この報告書には、データベースのトップページ、および検索例（「惨事ストレス」という検索語を用いた場合）を収載した。



▲ HOME

◆ ト라우マ研究データベース ◆

- ▶ About JSTSS
- ▶ What is PTSD
- ▶ PTSD Topics
- ▶ Conferences
- ▶ Journals
- ▶ Membership

医学の特定の領域に関する情報データベースの構築は、社会的関心の高い分野で以前から行われており、肝疾患、HIV、神経筋難病などに関するデータベースが、インターネット上で公開されています。トラウマおよびPTSDに関しては、阪神・淡路大震災以後、高い社会的関心が寄せられており、学術文献のみならず啓発用資料、地域保健活動のマニュアル、報告書などが掲載されたデータベースの開設運用が求められてきました。米国では国立PTSDセンターのホームページに、数多くのマニュアル、評価尺度、学術文献データベースが公開されていますが、わが国にはこうした統合された形での情報提供システムはありませんでした。日本トラウマティック・ストレス学会ホームページに2007年3月に開設された、「トラウマ研究データベース」は、日本で出版された心的トラウマ、PTSDなどに関連する文献を網羅的かつ効率的に、検索することを目的としています。

このデータベースに収録されるのは、日本語で発表された論文、著作、報告書、資料などです。2007年3月の開設時においては、日本トラウマティック・ストレス学会が著作権を持つ文献・資料など約400件の収録に限られていますが、皆様のご協力を得ながら拡充していきたいと思っております。



補)

- このデータベース開発に際しては、平成17年度厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「ストレス性精神障害の予防と介入に携わる専門職のスキル向上と情報データベース構築に関する研究」(主任研究者:加藤寛)からの助成を得ました。
- 英語文献のデータベース(PILOT)はこちらから。
- 新規データの募集方法については改めてアナウンスいたします。

◎ TOPへ



検索トップ

検索

検索語入力

検索語

- キーワードを入力し「検索実行」を押してください。
- キーワードが複数あるときは、スペースで区切って入力してください。
- 「キーワード検索」は、関連用語から検索することが可能です。

検索実行

検索語クリア

検索条件

AND OR

表示件数

10

表示順

発行年(降順)

[HOME](#) | [About JSTSS](#) | [What is PTSD](#) | [PTSD Topics](#) | [Conferences](#) | [Journals](#) | [Membership](#)

Copyright (c) 2001-2007 Japanese Society for Traumatic Stress Studies All rights reserved.



検索結果

検索トップ > 検索結果

検索

検索語入力 惨事ストレス

検索語

- キーワードを入力し「検索実行」を押してください。
- キーワードが複数あるときは、スペースで区切って入力してください。
- 「キーワード検索」は、関連用語から検索することが可能です。

検索実行

検索語クリア

検索条件

AND OR

表示件数

10

表示順

発行年(降順)

検索履歴

組合せ検索を行なう場合は、検索履歴の先頭にあるチェックボックスを2つ以上チェックし、検索条件の「AND」「OR」を選択のうえ、「履歴検索実行」を押してください。

No.	検索語	検索対象	件数
<input type="checkbox"/> 1	惨事ストレス	通常検索	29

検索条件

AND OR

履歴検索実行

検索履歴クリア

全履歴の表示

結果表示

ヒット件数: 29

1 | 2 | 3 | 次へ

1 タイ津波およびパキスタン地震へ派遣された国際緊急援助隊員への海上保安庁におけるメンタルケア活動

発行年 2006/03

著者 廣川進, 飛鳥井望

出典 日本トラウマティック・ストレス学会第5回大会シンポジウム「組織的救援者のためのトラウマケア」

2 オーストラリアとニュージーランドにおける惨事ストレスの現状

発行年 2006/03

著者 井上果子, 畑中美穂, 立脇洋介, 松井豊

出典 日本トラウマティック・ストレス学会第5回大会シンポジウム「組織的救援者のためのトラウマケア」

3 ジャーナリストの惨事ストレス(2)新聞記者に対する面接調査から

発行年 2006/03

著者 福岡欣治, 小城英子, 畑中美穂, 板村英典, 松井豊

出典 日本トラウマティック・ストレス学会第5回大会ポスターセッション

4 日本の消防におけるストレス対策の現状

発行年 2006/03

著者 松井豊, 丸山晋

出典 日本トラウマティック・ストレス学会第5回大会ポスターセッション

5 ジャーナリストの惨事ストレス(1)研究背景と目的

発行年 2006/03

著者 松井豊, 安藤清志, 福岡欣治, 井上果子, 畑中美穂

出典 日本トラウマティック・ストレス学会第5回大会ポスターセッション

6 精神科病棟勤務従事者と惨事ストレス

発行年 2006/03

著者 大岡由佳, 前田正治, 高松真理, 牧田潔, 矢島潤平, 辻丸秀策

出典 日本トラウマティック・ストレス学会第5回大会ポスターセッション

7 消防隊員におけるPTSD症状と対処様式との関連性

発行年 2005/03

著者 大岡由佳, 前田正治, 矢島潤平, 辻丸秀策

出典 日本トラウマティック・ストレス学会第4回大会ポスターセッション

8 緊急時に遭遇したバイスタンダー(善意の第三者)における惨事ストレス

発行年 2005/03
著者 岡野谷純, 篠崎博
出典 日本トラウマティック・ストレス学会第4回大会ポスターセッション

9 消防隊員の惨事ストレスをめぐる諸問題～メンタルヘルス

発行年 2005/03
著者 矢島潤平, 前田正治
出典 日本トラウマティック・ストレス学会第4回大会ポスターセッション

10 海上保安官と惨事ストレス — 「JCG惨事ストレスチェックリスト」の開発とその活用

発行年 2005/03
著者 飛鳥井望, 廣川 進
出典 日本トラウマティック・ストレス学会第4回大会シンポジウム「惨事ストレス」

ヒット件数:29

1 | 2 | 3 | 次へ

検索

検索語入力 惨事ストレス

検索語

- ・ キーワードを入力し「検索実行」を押してください。
- ・ キーワードが複数あるときは、スペースで区切って入力してください。
- ・ 「キーワード検索」は、関連用語から検索することが可能です。

検索実行

検索語クリア

検索条件 AND OR

表示件数 10

表示順 発行年(降順)

[検索トップ](#) > [検索結果](#)

[HOME](#) | [About JSTSS](#) | [What is PTSD](#) | [PTSD Topics](#) | [Conferences](#) | [Journals](#) | [Membership](#)

Copyright (c) 2001-2007 Japanese Society for Traumatic Stress Studies All rights reserved.

詳細表示

[検索結果画面へ戻る](#)

※ブラウザの「戻る」ボタンを使用しないでください。検索履歴が重複いたします。

タイトル	海上保安官と惨事ストレス —「JCG惨事ストレスチェックリスト」の開発とその活用
著者	飛鳥井望, 廣川 進
筆頭著者の所属	東京都精神医学総合研究所
発行年	2005年03月
出典	日本トラウマティック・ストレス学会第4回大会シンポジウム「惨事ストレス」
論文種類	会議録
抄録	<p>海上保安庁において惨事ストレスが大きく注目される契機となったのは、平成13年12月九州南西海域に発生した工作船事案である。海上保安庁では海上保安官の惨事ストレスに関する実態調査を平成15年に実施し、それに基づいた「対策要綱」を本年度末までにとりまとめる予定である。実態調査では全国11管区に所属する現場勤務の海上保安官より5分の1抽出した1,053人を対象として質問紙調査を実施した(有効回答率80.0%)。過去10年間に強いストレスを感じる事件事故に遭遇した者は回答者の45.6%であり、そのうち狭義の惨事体験があった者は70.3%、早期のストレス症状があった者は74.1%であった。早期ストレス症状があった者のうち、調査時点におけるIES-R得点25点以上の外傷性ストレス症状高危険者の事例率は13.0%であった。これは強いストレスとなった事件事故遭遇者全体の9.1%、狭義の惨事体験者の9.6%に相当した。調査データより、総当り式の変数選択法を用いて、IES-R得点をもっともよく予測する早期ストレス症状項目の組み合わせを求めた。その結果として、職員自身による簡便なセルフチェックのための惨事ストレスチェックリストを新たに開発し、要注意者、要ケア者スクリーニングのためのカットオフを設定した。今後はチェックリストを活用することで、ケアシステムの充実へとつながることが期待される。</p>
キーワード	海上保安官, 惨事ストレス

[検索結果画面へ戻る](#)

IV 研究成果の刊行に関する一覧表

1. 口頭発表

発表者	タイトル	場所
飛鳥井 望、廣川 進	海上保安官と惨事ストレス — 「JCG惨事ストレスチェックリスト」の開発とその活用	日本トラウマティック・ストレス学会第4回大会、東京、2004
加藤 寛	殉職事故後の心理的影響の長期経過	日本トラウマティック・ストレス学会第4回大会、東京、2004
廣川進、飛鳥井望	タイ津波およびパキスタン地震へ派遣された国際緊急援助隊員への海上保安庁におけるメンタルケア活動	第5回日本トラウマティック・ストレス学会、神戸、2006
藤井千太、加藤寛	風水害後の災害ストレス—平成16年台風23号災害1年後に実施した健康調査の結果から—	第5回日本トラウマティック・ストレス学会、神戸、2006
Hiroshi Kato, Tomoko Osawa, Hideto Hirotsume, Atsuro Tsutsumi.	Community Intervention after the Major Traffic Accidents	IV World Congress on Traumatic Stress. June 21 to 24, 2006 Buenos Aires City,
Tomoko OSAWA, Hiroshi KATO, Hideto HIROTSUNE.	Lesson Learned or Not', Massive Disaster and Mental Health Intervention in Japan	The IV World Congress on Traumatic Stress Studies. 2006/6/21. Buenos
加藤寛	大規模災害後の治療的介入の可能性:長時間曝露法及び複雑性悲嘆治療の試み	日本トラウマティックストレス学会第6回大会、東京、2007
大澤智子、加藤寛	消防職員における惨事ストレスの耐性要因について	日本トラウマティックストレス学会第6回大会、東京、2007
前田正治	えひめ丸事故における通文化的問題—日米補償交渉と謝罪をめぐる国民感情の相違	日本トラウマティックストレス学会第6回大会、東京、2007
飛鳥井望	被害者及び被害者遺族に対するエビデンスに基づいた治療の取組	日本トラウマティックストレス学会第6回大会、東京、2007
大江美佐里、前田正治、前田久雄	ガルーダ航空機事故の長期的影響:10年後の質問紙および面接調査を通して	日本トラウマティックストレス学会第6回大会、東京、2007
大岡由佳、前田正治、古賀章子ほか	被害者支援における精神科医療の有用性とその課題	日本トラウマティックストレス学会第6回大会、東京、2007
加藤寛	トラウマとこころのケア	武蔵野大学・JSTSSプレシンポジウム、東京、2006

2. 論文発表

著者	タイトル	書名・巻(号)、ページ、 発表年
加藤 寛、飛鳥井望	災害救援者の心理的影響—阪神・淡路大震災で活動した消防隊員の大規模調査から—	トラウマティック・ストレス 2(1), 51-59, 2004
山下由紀子、伊藤美花、嶋崎淳子、笹川真紀子、小西聖子	市町村保健師の二次的外傷性ストレスの観点からみたメンタルヘルス	トラウマティック・ストレス 2(2), 75-87, 2004
加藤 寛	災害救援者と惨事ストレス	臨床心理学 4(6) 753-757, 2004
廣川 進、飛鳥井 望、岸本淳司	海上保安官における惨事ストレスならびに惨事ストレスチェックリストの開発	トラウマティック・ストレス3(1), 57-65, 2005
大澤智子	二次受傷に関する実証的研究-犯罪被害者を支援する人々を対象にして	心的トラウマ研究1, 79-85, 2005
廣常秀人、大澤智子、加藤 寛	外傷的出来事後の認知行動療法を中心とする早期介入による治療および二次予防の有効性	心的トラウマ研究1, 87-93, 2005
白井明美、木村弓子、小西聖子	外傷的死別におけるPTSD	トラウマティック・ストレス3(2), 181-188, 2005
加藤 寛	日本における災害精神医学の進展:阪神・淡路大震災後の10年間を振り返って	精神医学 48(3):231-239, 2006
加藤 寛	外傷後ストレス障害—治療の基本的戦略	臨床精神医学 35(6) 865-870, 2006.
加藤 寛	「こころのケア」に内包されるもの	21世紀ひょうご 創刊号 44-49, 2006
大澤智子	災害時の医療コミュニケーション	月刊薬事48(13)、87-91.
大澤智子	トラウマからの解放:EMDR(書評)	精神療法32(5)、640-641.